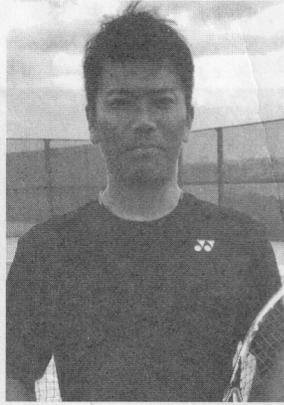


球

心

日本体育大学
校友会
ソフトテニス部
部報



今年を振り返って…

コーチ 浅川 陽介

私が23歳から3年間日体大コーチとして携わってから16年の月日が経ちました。今年の春から篠原監督より男子コーチの協力依頼があり、再び日体大ソフトテニス部のサポートをさせて頂くことになりました。

まずは、東日本学生シングルス選手権大会において、当学生3名が不正試合に関係している事案が発生致しました。日頃より多大なるご協力ご支援を賜る中に、ご心配とご迷惑をおかけした事を心よ

りお詫び致します。現在再発防止へ向けて大学と連携を図り、コンプライアンスセミナーを受講し、個々の意識改革へ向けた取り組みを行っているところです。この取り組みが一過性のものではなく、日々継続し続ける為にも日頃から学生とスタッフがコミュニケーションを図り、日本体育大学の良き伝統と格式を継承して参りたいと考えております。スタッフを代表して心よりお詫び致します。

さて、今年も関東学生リーグ戦から始まり、白子町で開催されました。男子は4位で残念ながら王座出場権を逃すも、女子は2位で全日本学生王座へ駒を進めました。今年の学生王座は北海道開催となり、北海道のOB・OGに激励会を開催して頂き、一丸となって戦った結果は、春リーグの雪辱を果たし東京女子体育大学との決勝戦は3番勝負を制して見事優勝し

てくれました。続く東日本学生選手権学校対抗は男子ベスト8、女子2位。続いて岩手県で開催された、全日本大学対抗選手権に於いては、男子3位、女子ベスト8と、後半は思うように結果が出ずに、残念至極の時間を過ごしました。しかし、学校対抗後の選手権に於いては、笠井・久保ペアが2位となり、笠井選手は4年連続して決勝に残り2回優勝(尾上選手)、2回準優勝(尾上選手、久保選手)という大きな功績を残してくれました。勝つことの難しさと同時に、4年間常にトップに君臨し続けてくれる存在に、チームメイトはどれだけ励まされたのか計り知れませんが、後輩たちへ強烈なメッセージとして心に刻まれた様に思います。

今年に残念ながら目標を勝ち取る事ができませんでしたが、インカレアベック優勝を目標に掲げて、男子は山本主将(能登高校出身)、女子は笠井主将(和歌山信愛出身)を中心に日々取り組んでくれました。合宿所を通して、仲間との信頼関係構築をはじめとする共同生活。春と夏の合宿では、フィジカルトレーニングもトレーナー研究会の学生を男性ともに帯同させ、フィジカルとプレーのマッチングを行うなどの強化策を実施。また女子に関しては栄養サポートを大学機関と連携し、日頃からパフォーマンスとは何かを問い、アスリートとしての自覚構築への取り組みも実施してきました。思う様な結果は獲得できずとも、個々に芽生えるソフトテニスへの情熱は日々向上しているように感じています。

今後は、今以上に真摯に真剣に自身と向き合い、ソフトテニス競技の普及発展に尽力出来る人材の育成を引き続き行なって参りたいと考えています。4年生の成し得なかった全日本学生優勝へ向けて日々取り組みがスタートしております。

最後になりますが、学生及びスタッフ共に成長して参りますので、引き続き皆様のご支援ご協力、叱咤激励をよろしく願います。

令和元年度

新入生紹介

今年も日本体育大学学友会ソフトテニス部に男子六名、女子十名が入部してきました。

大学生活四年間の中で心身ともに大きく成長し、それぞれの夢や目標に向かって学業や部活動に励んでくれることを期待したいと思います。集団生活を通して多くの人と関わりながら人間性を磨き、社会の一員として立派な大人に成長して下さい。



江頭 寛 晃

岡山県 岡山理科大学附属高等学校



岡山県岡山理科大学附属高等学校から参りました。江頭寛晃です。ポジションは後衛です。私の目標はインカレ団体優勝を成し遂げることです。また、将来は教師になりたいと思っています。その為にも文武両道を怠らないように頑張ります。宜しく御願致します。

甲斐 将 太

大分県 大分商業高等学校



大分県立大分商業高等学校から参りました甲斐将太です。ポジションは前衛です。目標は自力インカレです。日頃の生活態度などをしっかりとし、挨拶が誰にでもできるような人になりたいです。今自分に何ができるか考え頑張っていくので宜しく御願致します。

小林 泰 智

埼玉県 上尾高等学校



埼玉県立上尾高等学校から参りました。小林泰智です。ポジションは前衛です。目標は、団体戦に出場し、チームに貢献することです。その為には、日々の生活から気を配り、人として成長して全力で努力していきたいと思っています。宜しく御願致します。

下 國 康 生

北海道 北海道科学大学高等学校



北海道科学大学高校から参りました一年の下國康生です。ポジションは後衛です。日体大ソフトテニス部の素晴らしい環境の元、日々練習できていることに感謝しながら日本一を目指して精進していきます。これからも宜しく御願致します。

森田晴紀

宮崎県 都城商業高等学校



宮崎県都城商業高等学校から参りました森田晴紀です。ポジションは前衛です。日本体育大学という伝統ある環境の中で、心身共に磨き、日本一に貢献できる選手を目指します。テニスが出来ることに感謝し、一日一日を大切に日々精進していきます。

山之上 雷己

静岡県 富士宮北高等学校



静岡県富士宮北高等学校から参りました。山之上雷己です。ポジションは後衛です。目標はインカレ、王座団体優勝です。また、将来高等学校の教員になる為に、挨拶や礼儀をしつかりして、生徒たちに尊敬される人間になりたいと思います。宜しく御願いたします。

浅倉衣里

和歌山県 和歌山信愛高等学校



私は中学生の頃から日本体育大学でプレーすることに憧れていました。なのでレベルの高い先輩方の良いプレーなど吸収し高校の頃よりもっともつとレベルアップできるように頑張りたいです。又、高校で取る事が出来なかった日本一を取れるよう頑張ります。

安部 愛菜

福島県 喜多方高等学校



私は、スポーツトレーナーになる為に、自分が選手になる事で選手の間持ちがより理解できるようになるのではないかと思いい入部しました。それだけでなく、レベルの高い中で練習することで自分の技術もレベルアップを目指せると思います。日本体育大学に来ました。

市岡 悠実

東京都 日本体育大学桜華高等学校



私は、日本体育大学のソフトテニス部に入部し、トップレベルのチームの中で人間的に成長したいと思います。レベルの高い先輩方や同期から沢山の技術を学び、自身のレベルアップに向けて日々努力を怠らず頑張ります。そして、将来に向けて人間力も高めます。

工藤 彩奈

秋田県 横手城南高等学校



私日本一を心がけ、高いレベルで取り組んでいる日本体育大学で、ソフトテニスの技術だけではなく、礼儀や態度などを厳しく指導していただきたいと思います。日本一の目標を叶えるため、努力し、精一杯取り組んでいきたいと思ひます。

黒坂 彩江

東京都 文大杉並高等学校



私は、日本体育大学で、トップレベルの選手と共に練習し、すぐれた環境で競技力向上はもちろん寮生活で人間力を鍛えたいと思ひ入学しました。又、勉学にも励み、教員免許を取得したいと思ひつています。四年間、後悔しないようにがんばりたいと思ひます。

原島 百合香

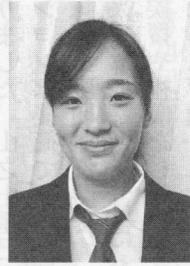
東京都 文大杉並高等学校



私は、与えられた環境の中で、アスリートとして、一人の女性として成長していきたいと思ひます。最終目標はインカレ個人、団体日本一を獲る事ですが、私がチームに大きく影響できるように存在になりたいと思ひます。

星野来夢

茨城県 水戸女子高等学校



私が日体大に入学した理由は、高校の監督の勧めもあったが、自分自身もつとテニスがうまくなりたいと感じ、日本一のチームに入り、技術的にも人間的にも成長させたいと思ったからです。日本一になるという夢に向かって日々努力していきます。

町田三姫

東京都 日本体育大学桜華高等学校



私は、日本体育大学でトップレベルの選手と共に同じ環境で練習して、競技力を向上させたいです。その為にも、ソフトテニスや寮生活を通じて人間的にも成長出来るように、やるべき事をやって、勉強面もしっかりやっていきたいです。

八重樫美桜

東京都 日本体育大学桜華高等学校



私は日本体育大学のソフトテニス部に入り、レベルの高い環境で先輩達から技術を学びたいと思います。そして、試合に出て活躍できる選手になりたいです。寮では集団生活を送る中で、人間性を高めていきたい。練習や仕事、妥協せずに頑張っていきたいです。

山本美羽

群馬県 健大高崎高等学校



私は、日本体育大学に入学してソフトテニスで日本一を取りたくて来ました。ソフトテニスだけではなく教師になる夢も叶えたいと思います。そのために、難しい事も困難な事もあると思いますが、逃げずに頑張っていきたいと思えます。

戦績記録

今年もまだシーズンの途中ですが、日体大の選手が各大会で素晴らしい成績を残してきました。これまでの結果を紹介させていただきます。

第64回全日本女子選抜ソフトテニス大会

四月六・七日の二日間、駒沢オリンピック公園総合運動場屋内競技場で行われた。日体大から笠井・久保ペア、黒田・桑名ペア、小林（東京女子体育大学）・原島ペアが出場した。笠井・久保ペア、小林・原島ペアともに予選を突破したがトーナメント一回戦で敗退し、黒田・桑名ペアは惜しくも予選敗退となった。

実業団等のトップレベルの選手と試合が出来、とても良い経験となった。



女子選抜に出場して

二年 久保 晴華

今回の大会は二年生になって初めての大会で少し新鮮な気持ちで挑みました。インドアで二面しかない中で試合で、いつもとは違う緊張感がありました。予選リーグから厳しい試合が続きましたが、落ち着いて試合ができました。二日目の負けてしまった試合では、リードしてあと一步というところからの逆転負けで、悔しい思いをしました。今回の悔しさや課題を次の試合に繋げていきたいです。

女子選抜に出場して

一年 原島百合香

大学生として初めての大きな大会でした。日本体育大学という名前を背負ってプレーする事に不安と緊張でいっぱいでした。多くの人の視線は苦手ですが、とにかく楽しむ事だけ考えました。応援の方々のおかげで二日目まで残る事ができましたが、課題も多くできました。その課題一つ一つが自分の弱点であり、大きな壁です。壁を壊してトップのレベルで戦える選手へと変わっていきます。

令和元年東都大学
ソフトテニス春季リーグ戦

四月二十七日、二十八日の二日間、男女共に東京学芸大学テニスコートで行われた。

男子は8校中7戦全勝で一位。女子は6校中4勝の得失点差で二位という結果となった。新入生にとつては初めての団体戦だったので、とても良い経験になったのではないか。

東都リーグに出場して

二年 小川 智生

僕は、今年で二年目の東都リーグになりますが、未だに中央大学戦に出場していません。東都リーグの一番と言えば、中大戦だと思ふので来年こそは出場して、チームの勝利に貢献したいです。東都リーグは、他の大会と比べて全く違う緊張感があり、負けられない、勝たなければいけないと思つてしまふ、出だしがいつも良くないので、試合自体をもっと楽しめるように三年目も挑みたいですよ。

令和元年度 東都大学ソフトテニス春季リーグ戦

<女子の部>

	1	2	3	4	5	6	順位
1 青山学院大学		②	③	③	1	③	1
2 日本体育大学	1		③	③	③	②	2
3 日本女子体育大学	0	0		②	③	②	3
4 筑波大学	0	0	1		③	1	6
5 東京学芸大学	②	0	0	0		②	4
6 日本大学	0	1	1	②	1		5

<男子の部>

	1	2	3	4	5	6	7	8	順位
1 日本体育大学		⑤	④	④	⑤	⑤	⑤	④	1
2 中央大学	0		⑤	③	④	③	④	⑤	2
3 東洋大学	1	0		2	④	⑤	④	④	4
4 東京学芸大学	1	2	③		③	④	③	④	3
5 青山学院大学	0	1	1	2		③	③	③	5
6 日本大学	0	2	0	1	2		2	③	6
7 筑波大学	0	1	1	2	2	③		2	7
8 芝浦大学	1	0	1	1	2	2	③		8

令和元年度関東学生
ソフトテニス大会

五月十一日、十五日に千葉県白子町サニーテニスコートで令和元年度関東学生ソフトテニス大会が行われた。男子大学対抗は、早稲田大学、明治大学、國學院大學に敗れ四位だった。女子大学対抗は東京女子体育大学に敗れ二位という結果になった。選手権男子では、溝端・山本ペアが二位、橋本・星野ペアが三位、原口・森田ペア、川崎・川上ペアがベスト8、垣本・境ペア、村田・小田島ペアがベスト16に入った。選手権女子では、笠井・久保ペアが見事優勝、黒田・桑名ペアが三位、鈴木・原島ペアがベスト8、浅倉・斉藤ペア、大貫・松尾ペア、酒井・田辺ペアがベスト16に入った。シングルス男子では、星野雄慈、永井宏典、下國康生がベスト16に入った。シングルス女子では、黒田奈穂子が二位、酒井葵衣が三位、笠井佑樹がベスト8に入った。男女共にそれぞれの課題が見つかったと思うので、結果に満足することなく日々努力していきたい。

春リーグに出場して

二年 垣本 瑞貴

私は団体戦四試合に出させていただきました。結果的にはまだまだ課題が残る結果となりましたが他大学の選手のプレーを肌で感じ自分が克服しないといけない弱点を知ることができたので次の春リーグでもメンバーとして選ばれるようこれからも努力していきたいと思ふます。個人戦ではベスト16という目標を達成することができたのでより高みを目指していきたいと思ふます。

春リーグに出場して

二年 吉井 夏海

春リーグは私にとつて、新学年になって初めて出場する大会でした。久しぶりの公式戦で緊張しましたが、楽しみでもありました。試合ではストロークのミスを少なくすること、サーブレシーブでコースを攻めることを意識しました。しかし、レシーブのミスが目立ち、もっと正確に返せるように練習しようと思ふました。新たな課題を見つけることができ、次に活かそうと強く思ふました。

令和元年度 関東学生ソフトテニス春季リーグ戦

<女子の部>

	1	2	3	4	5	6	順位
1 日本体育大学		0	③	②	③	②	2
2 東京女子体育大学	③		②	②	②	③	1
3 早稲田大学	0	1		0	②	1	5
4 明治大学	1	1	③		1	②	3
5 東京経済大学	0	1	1	②		1	6
6 青山学院大学	1	0	②	1	②		4

<男子の部>

	1	2	3	4	5	6	順位
1 早稲田大学		⑤	2	③	⑤	④	2
2 日本体育大学	0		1	1	⑤	③	4
3 明治大学	③	④		2	③	⑤	3
4 國學院大学	2	④	③		⑤	④	1
5 中央大学	0	0	2	0		2	6
6 法政大学	1	2	0	1	③		5

春リーグに出場して

二年 薬田 亮

僕は、春リーグに出場して、感じた事は、応援の力が元気の源という事が分かりました。選手を励ます応援をすると、選手が応援に応えてくれるので、プレーにキレがありました。その選手のプレーに応援側は、拍手などをし、頑張れという気持ちを送っていました。結果は四位という結果でしたが、それよりも応援の力があつての四位なので、秋リーグでは優勝を狙って頑張りたいです。

春リーグに出場して

一年 山本 美羽

私は、自力でインカレを取り切ることができませんでした。やはり、インカレは他の選手に勝って自力で決めることに意味があると思います。校内で枠があつたため、校内戦で一位になりインカレに出場することができました。負けた試合で学ぶことが多く、課題も沢山見つかりました。その課題をちゃんと向き合い来年は必ず自力でインカレを決めたいと思いました。

第70回 関東学生ソフトテニス選手権大会

<女子の部>

1 笠井・久保 (日本体育大学)	4 宮下・鈴木 (明治大学)	60
8 山本・古屋 (東京女子体育大学)	小川・村 (早稲田大学)	71
19 浅倉・斉藤 (日本体育大学)	下江・花園 (早稲田大学)	75
29 原口・上田 (明治大学)	2 高井・生方 (東京女子体育大学)	89
30 松永・土井 (立教大学)	3 大貫・松尾 (日本体育大学)	90
44 林田・島津 (東京女子体育大学)	高崎・小松 (東京女子体育大学)	103
49 山田・中田 (東京女子体育大学)	酒井・田辺 (日本体育大学)	104
53 鈴木・原島 (日本体育大学)	黒田・桑名 (日本体育大学)	118

<男子の部>

1 長尾・松本 (早稲田大学)	2 後藤・増田 (早稲田大学)	143
31 原口・森田 (日本体育大学)	金子・渡辺 (東京経済大学)	151
32 前川・川嶋 (法政大学)	0 稲葉・西 (法政大学)	175
63 橋本・星野 (日本体育大学)	4 川崎・川上 (日本体育大学)	176
68 垣本・境 (日本体育大学)	3 内本・上松 (早稲田大学)	192
88 山根(稔)・岩本 (早稲田大学)	溝端・山本 (日本体育大学)	223
96 濱野・佐藤 (國學院大学)	1 村田・小田島 (日本体育大学)	239
127 北本・丸山 (明治大学)	1 因・内田 (早稲田大学)	255

春リーグに出場して

一年 小林 泰智

私は個人戦に出場しました。団体戦の雰囲気とは全く違く、少少の空気に込まれてしまいました。また、高校の雰囲気とも違ったので緊張しました。結果はインカレ出場の手前で負けてしまいました。自力インカレを成し遂げる難しさを知り、来年は自力インカレを目指して練習に取り込んでいこうと思います。また、団体戦メンバーとしてチームに貢献できるようになりたいと思います。

春リーグに出場して

一年 下國 康生

僕は、今回春リーグに出場させていただけました。試合に入る前は自分の力を全て出そうと思つて試合に臨んだのですが、自分の力の半分も出ずに負けてしまいました。しかし、自分の力不足が分かつたと共に、応援の力も凄く感じました。これからは、秋リーグでも試合に出て勝てる様に感謝の気持ちを忘れず、日々精進していきたいです。



第26回 関東学生ソフトテニスシングルス選手権大会

<女子の部>

9 十九浦 彩香 (青山学院大学)	3	0	前山 愛 (立教大学)	123
24 古屋 沙也加 (東京女子体育大学)	2	3	酒井 葵衣 (日本体育大学)	143
38 林田 リコ (東京女子体育大学)	1	0	高井 紀衣 (東京女子体育大学)	148
45 栗野 未来 (青山学院大学)	1	2	山本 英里 (東京女子体育大学)	171
60 笠井 菜々子 (明治大学)	3	1	片野 理音 (東京女子体育大学)	178
82 笠井 佑樹 (日本体育大学)	1	3	小山 舞 (早稲田大学)	203
93 鈴木 梨沙 (明治大学)	0	2	小松 芹奈 (東京女子体育大学)	214
118 島津 佳那 (東京女子体育大学)	1	3	黒田 奈穂子 (日本体育大学)	236

<男子の部>

1 上松 俊貴 (早稲田大学)	0	丸山 海斗 (明治大学)	238
30 松元 康希 (東海大学)	0	高倉 和毅 (早稲田大学)	296
60 小田島 俊介 (慶應義塾大学)	1	内本 隆文 (早稲田大学)	297
119 中平 慎吾 (明治大学)	1	永井 宏典 (日本体育大学)	355
120 米澤 要 (明治大学)	2	北本 達己 (明治大学)	356
160 水木 瑠 (早稲田大学)	3	下國 康生 (日本体育大学)	405
208 内田 理久 (早稲田大学)	0	丸山 章 (中央大学)	437
237 星野 雄慈 (日本体育大学)	3	後藤 佳佑 (早稲田大学)	459



第26回全日本シングルスソフトテニス選手権大会

五月十八日〜十九日に長崎市総合運動公園かきどまり庭球場で行われた。男子は佐野間秀道、星野雄慈、溝端亮二、光井裕貴、垣本瑞貴、小田島圭、森田晴紀が出場した。女子は、岩下美久、笠井佑樹、宮園未奈、大貫彩、黒田奈穂子、堀真子、松尾七海、久保晴華、酒井葵衣、鈴木愛香、原島百合香が出場し、笠井佑樹が三位に入った。

全日本シングルスに出場して

三年 溝端 亮二

私は、この大会に出場して勝ち切る事の難しさを学びました。決して勝てない相手ではなかったのですが、あと一ゲームが取り切れず、逆転して負けてしまいました。長崎と参加するにも多額のお金がかかる大会で、二回戦で負けてしまった事は本当に悔しく思いました。が最後まで全力で戦ったからこそ学ぶことが出来たと思います。来年は、この悔しい思いを忘れず、学生最後の年、勝ち切ります。

全日本シングルスに出場して

二年 酒井 葵衣

全日本シングルスでは、自分の地元で開催ということもあり、普段とは少し違う感情で試合に挑みました。結果としては東京女子体育大学の林田選手にベスト16掛けで負けましたが、日本体育大学の卒業生の方とも全日本の場で試合ができました。天候にもあまり恵まれない中での試合の工夫をもう少し考えて行きたいと思いました。

第70回関東ソフトテニス

選手権大会

五月二十五日〜二十六日に千葉県白子町サニーテニスコートで行われた。一般男子では原口・森田ペア、溝端・川上ペア、橋本・菅家ペア、川崎・渡辺ペア、村田・小田島ペア、築田・渡辺ペアが出場し、原口・森田ペア、川崎・渡辺ペア、村田・小田島ペアがベスト32に入った。一般女子では笠井・久保ペア、堀・河村ペア、黒田・桑名ペア、浅倉・松尾ペア、酒井・田辺ペア、鈴木・原島ペアが出場し、笠井・久保ペアがベスト8、堀・河村ペア、浅倉・松尾ペア、鈴木・原島ペアがベスト32に入った。



関東一般に出場して

二年 渡辺 澤治

あまりない一般の大会に出場して社会人の球質や技術は大学の大会よりもレベルが高くとても良い経験になりました。私は、社会人の選手に負けてしまったのですが優勝したペアは大学生が優勝していて大学の大会でこのような選手達を倒していかないとチームの目標である。インカレ優勝できないと思ってもつと練習や試合、試行錯誤を重ねて強くなっていかなければならないと思いました。

関東一般に出場して

三年 堀 真子

私は、今回初めてこの大会に出場した。高校生から実業団まで幅広い選手が集まるこの大会で、とてもいい手応えを得ることができた。四回戦で実業団の選手に負けてしまったが、自分の持っている技術以上のものがでたというかわゆるゾーンの中で最後まで気がする。どんなボールでも思いきって打って、とても楽しく試合ができた。しかし、勝敗にもこれから特にこだわっていきたい。

第70回 関東ソフトテニス選手権大会

<女子の部>

1 徳川・黒木 (ヨネックス)	0	早川・根岸 (ナガセケンコー)	116
29 原口・上田 (明治大学)	0	岡本・脇田 (桜倶楽部)	136
30 坂東・上原 (Palaistra)	0	小山・川村 (早稲田大学)	145
57 笠井・久保 (日本体育大学)	2	原野・草野 (早稲田大学)	172
58 保坂・和田 (桜倶楽部)	2	三橋・三関 (早稲田大学)	180
76 日高・原 (昭和学院高校)	0	大井・菊地 (ヨネックス)	200
87 香川・坂東 (國學院大学)	1	中川・芝崎 (ナガセケンコー)	201
115 花・濱村 (ナガセケンコー)	1	桑山・持田 (埼玉平成高校)	225

<男子の部>

1 因・内田 (早稲田大学)	1	北本・丸山 (明治大学)	127
31 中平・米澤 (明治大学)	1	山根・奥村 (早稲田大学)	149
39 本倉・斉藤 (明治大学)	2	安藤・平井 (東京ガス)	165
48 石井・佐藤 (國學院大学)	2	小田桐・掛川 (森田)	187
64 十津川・秋元 (市川市役所)	0	大井・東 (谷河内倶楽部)	190
80 鯨井・堂野 (早稲田大学)	3	高倉・松本 (早稲田大学)	221
96 内本・上松 (早稲田大学)	3	水木・白井 (早稲田大学)	234
126 桂・高月 (ヨネックス)	3	金子・田中 (明治大学)	249

第69回東日本学生

ソフトテニス選手権大会

六月二十九日〜七月三日に千葉県白子町サニーテニスコートで行われた。男子大学対抗では、法政大学に惜しくも敗れベスト8だった。女子大学対抗では、決勝戦で東京女子体育大学と対戦し、惜しくも敗れ準優勝となった。男子シングルスでは、溝端亮二がベスト8、山本貴大、星野雄慈、下國康生がベスト16に入った。女子シングルスでは、久保晴華がベスト16に入った。選手権男子では、溝端・山本ペア、橋本・星野ペアがベスト16に入った。選手権女子では、笠井・久保ペアが準優勝、宮園・河村ペア、浅倉・斉藤ペアがベスト8、黒田・桑名ペア、大貫・松尾ペアがベスト16入りという結果となった。



東インカレに出場して

三年 植村 友哉

東インカレに出場して感じたことは、試合に対する気持ちの持ち方の変化です。大学に入学してから三年目ということもあり、気持ちに少し余裕が出てきたりしてきました。適度なプレッシャーの中で、上手く体を使えるようになっており、インカレに向けていい形を作ることができました。

来年度は、最終学年となり、全ての試合が最後となるので悔いなくやり切りたいと思っています。

東インカレに出場して

二年 鈴木 愛香

二年目の東インカレに出場してみて、チームを背負って戦うことと勝ち続けることの難しさを学びました。団体戦でチームの代表として戦うことはとても嬉しい反面、プレッシャーも大きかったです。そんな状況の中で堂々とプレーし、チームの柱であった笠井先輩のような存在になりたいです。またダブルスでもシングルスでも常に上位に上られるよう、技術面、精神面とともに磨いていきます。

第69回 東日本大学対抗ソフトテニス競技大会

<女子の部>

1	日本体育大学	0	立教大学	14
2	仙台大学	0	順天堂大学	15
4	青山学院大学	0	慶応義塾大学	18
7	國學院大学	0	東京経済大学	20
8	早稲田大学	1	日本女子体育大学	21
9	筑波大学	0	東北福祉大学	24
11	文教大学	0	和洋女子大学	26
13	明治大学	0	東京女子体育大学	27

<男子の部>

1	早稲田大学	0	日本体育大学	17
5	東北福祉大学	0	國學院大学	20
8	慶應義塾大学	0	城西大学	21
9	専修大学	0	法政大学	24
11	東京経済大学	0	東海大学	25
13	立教大学	0	東北学院大学	28
16	中央大学	0	東京帝国大学	29
		0	明治大学	32

東インカレに出場して

一年 甲斐 将太

今回東インカレに出場して思ったことは高校とはレベルがあきらかに変わっており、全体的にミスも少なく決める時は一発で決めるという全てのプレーの質の高さを感じました。私は日頃の練習から試合のイメージをしながら少しずつでもレベルアップしていけるように頑張っていこうと思います。また、この環境でプレーできることをあたりまえにせず感謝し、プレーで恩返ししようと思います。

東インカレに出場して

二年 田辺なつき

去年よりも成長できたのではないかと考える試合でした。二日目がかけて東女体大に負けてしまいましたが、ペアと話し合いながら戦うことができました。ここぞという時に、毎回勝つことができず、とても悔しいです。そういう場面で勝ち切れるような選手になるために、日常生活から見直していき積極的に自主練習にも励んで良い成績を残したいです。



第74回 東日本学生ソフトテニス選手権大会

<女子の部>

1	黒田・桑名(日本体育大学)	4	小林・吉田(東京女子体育大学)	76
17	宮岡・河村(日本体育大学)	3	森岡・石田(立教大学)	80
18	林田・島津(東京女子体育大学)	2	小山・川村(早稲田大学)	85
26	下江・花園(早稲田大学)	1	高崎・小松(東京女子体育大学)	100
34	大貫・松尾(日本体育大学)	3	松永・土井(立教大学)	101
43	浅倉・斉藤(日本体育大学)	4	片野・石山(東京女子体育大学)	116
51	香川・坂東(國學院大学)	0	山本・古屋(東京女子体育大学)	117
59	中村・吉原(立教大学)	0	笠井・久保(日本体育大学)	133

<男子の部>

1	濱野・佐藤(國學院大学)	1	因内(早稲田大学)	132
18	田島・山館(立教大学)	4	高木・松田(東北福祉大学)	164
42	和泉・中坂(東海大学)	3	前川・川嶋(法政大学)	165
57	船井・高杉(東海大学)	4	中平・米澤(明治大学)	196
66	溝端・山本(日本体育大学)	1	本倉・齋藤(明治大学)	197
98	小田高・野口(慶應義塾大学)	4	橋本・星野(日本体育大学)	228
112	根本・渡邊(法政大学)	2	内本・上松(早稲田大学)	229
122	高橋・奥村(早稲田大学)	1	近藤・洞谷(法政大学)	261

東インカレに出場して

一年 山之上雷己

大学生になって初めての東インカレでした。インカレの前哨戦として臨んだ大会でした。シングルスでは天候の悪い中、考えながら試合をやりベスト32と少し手応えのあるものにできました。ダブルスでは、独特な試合の緊張感の中自分達の形にすることができ収穫がありました。しかし、試合の入りなど相手のペースになることが多くなるという課題も見つかりました。

東インカレに出場して

一年 黒坂 彩江

東インカレについて、関東オープン・春リーグに続いて、三回目の個人で戦える大会だったので、少し肩の力が抜けて練習でできるようなプレーができ、課題も見つけることができました。シングルスでも春リーグより勝ち進むことができたので、大学に入り環境が変わり、少しですが成果が出たのかと感じ、もつと頑張ろうと思う事ができた大会でした。

第62回 東日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会

<女子の部>

8 松井 玲奈 (早稲田大学)	1 島津 佳那 (東京女子体育大学) 124
19 矢島 万葉 (文教大学)	2 吉田 優奈 (早稲田大学) 139
38 鈴木 優美 (青山学院大学)	3 古屋 沙也加 (東京女子体育大学) 155
61 高井 紀衣 (東京女子体育大学)	4 久保 晴華 (日本体育大学) 178
76 吉田 滯奈 (東京女子体育大学)	5 花園 優帆 (早稲田大学) 186
85 林田 リコ (東京女子体育大学)	6 片野 理音 (東京女子体育大学) 215
106 桑野 未来 (青山学院大学)	7 小林 愛美 (東京女子体育大学) 228
114 須田 葵衣 (早稲田大学)	8 草野 亜衣奈 (慶應義塾大学) 240

<男子の部>

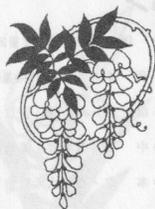
2 山本 貴大 (日本体育大学)	1 宮崎 悠登 (中央大学) 255
37 溝端 亮二 (日本体育大学)	2 上松 俊貴 (早稲田大学) 299
60 谷岡 凌太郎 (國學院大学)	3 田中 駿平 (明治大学) 313
119 高倉 和毅 (早稲田大学)	4 根本 大地 (明治大学) 359
145 上口 雅史 (東京学芸大学)	5 田中 耕太郎 (東洋大学) 375
170 下田 好輝 (國學院大学)	6 星野 雄慈 (日本体育大学) 419
209 山根 稔平 (早稲田大学)	7 内本 隆文 (早稲田大学) 435
224 下國 康生 (日本体育大学)	8 上之園 史恭 (専修大学) 464



第74回東日本ソフトテニス

選手権大会

七月二十日〜二十一日に浜松市花川運動公園テニス場、静岡市有度山総合公園体育施設テニスコート、静岡県草薙総合運動場庭球場で行われた。一般男子では、溝端・山本ペア、橋本・星野ペア、原口・森田ペア、川崎・川上ペア、村田・小田島ペア、築田・小川ペアが出場し、溝端・山本ペア、橋本・星野ペア、川崎・川上ペアがベスト16に入った。一般女子では、宮園・河村ペア、笠井・久保ペア、浅倉・斉藤ペア、黒田・桑名ペア、大貫・松尾ペア、鈴木・原島ペアが出場し、笠井・久保ペア、黒田・桑名ペアがベスト16に入った。普段対戦することのない実業団の選手と試合をして学ぶことが沢山あった。



東一般に出場して

二年 小田島 圭

私は七月二十日から二十一日に開催された東日本ソフトテニス選手権大会に出場しました。三回戦で札幌学院大学の粒来・天池ペアにストレート負けをしてしまいました。ペアとしてのダブルフォワードへの対応の悪さと自分のミスが目立ちました。改めて自分の弱さを痛感した大会でした。もつとペアとの話し合いを大事にしていきたいです。これからも頑張っていきます。

東一般に出場して

一年 浅倉 衣里

二回戦目に早川・芝崎ペアに負きました。ただ打ち合っても勝てないのに工夫することができませんでした。最後の方になって、前後に振り回して点につながったけれど気がつくのが遅すぎました。とてももつたいないことをしてしまいました。あと前衛にとられない工夫をしなくてははいけないと思いました。この失敗と悔しさを忘れず次の大会へ生かしていきます。

第74回 東日本ソフトテニス選手権大会

<女子の部>

1 徳川・黒木(ヨネックス)	0	笠井・久保(日本体育大学) 54
11 高井・根岸(東京女子体育大学)	2	中川・阿部(ナガセケンコー) 66
14 濱谷・岡村(ダンロップ)	0	2 下江・花園(早稲田大学) 72
26 真野・高橋(ベスト)	0	3 森合・大槻(ダンロップ) 79
31 木瀬・宮下(明治大学)	2	上野・清水(豊田シブサキ)
40 大羅・森松(ダンロップ)	2	0 早川・芝崎(ナガセケンコー) 92
41 大井・菊地(ヨネックス)	0	2 原野・草野(ナガセケンコー) 93
50 黒田・桑名(日本体育大学)	2	2 原口・上田(明治大学) 99

<男子の部>

9 川崎・川上(日本体育大学)	2	0	3 小出・藤本(國學院大学) 145
22 後藤・高倉(早稲田大学)	0	2	本・星野(日本体育大学) 160
34 小田島・野口(慶應義塾大学)	1	0	高橋・平井(東京ガス) 185
51 長尾・松本(早稲田大学)	1	2	林田・柴田(ヨネックス) 202
77 國松・伊比(龍崎キョウキクラブ)	3	0	粒来・天池(札幌学院大学) 217
92 西田・徳川(早稲田大学)	0	2	増田・蝦名(北海道科学大学) 234
102 溝端・山本(日本体育大学)	1	1	水本・白井(早稲田大学) 237
127 山根・岩本(早稲田大学)	0	2	中本・鈴木(福井県庁) 269

令和元年度全日本学生

ソフトテニス大会

八月五日〜十日まで盛岡市太田庭球場、岩手県営運動公園テニスコート、北上市和賀川グリーンパークテニスコートで行われた。男子大学対抗では、準決勝で早稲田大学に敗れ三位という結果になった。女子大学対抗では、ベスト4決めで東京女子体育大学に敗れベスト8という結果になった。男子ダブルスでは、溝端・山本ペアがベスト16に入った。女子ダブルスでは、笠井・久保が準優勝、宮園・河村ペアがベスト8に入った。男子シングルスでは、永井宏典がベスト16に入った。女子シングルスでは、岩下美久が三位、黒田奈穂子、酒井葵衣がベスト16入りを果たした。笠井佑樹はダブルスで四年連続決勝進出という素晴らしい成績を残した。岩下美久は四年間の地道な努力を積み重ね、見事三位入賞を果たした。男女共にとても悔しい思いをしたが、先輩達の果たせなかつた日本一に向かって、新チームキャプテン中心に厳しく練習に取り組んでいきたい。

インカレ団体を観戦して

二年 戸根 鈴華

去年はベスト8という悔しい結果となり、今年こそはという思いで、気持ちを一つに、日々練習に励んできました。結果はベスト8と、今年も悔しい結果になってしまいました。チーム全体雰囲気良く楽しく応援できたと思います。しかし、この二年間の悔しい思いを忘れず、チームの団結力をより強いものとし、一人一人が「日本一」になりたいと強い気持ちを持って頑張っていきたいと思えます。

インカレ団体を観戦して

一年 町田 三姫

大学生になって初めてインカレという大きな大会を観戦することが出来る機会だったので、私はユニフォームを忘れてしまい、貴重な試合を観る事が出来ませんでした。でも、選手がアップする所を見て、アップから集中して試合の話をしていました。またスクイズの中身を何度か入れ、裏で選手をサポートして、何も出来なかつたので申し訳なかつたです。次はきちんと準備したいです。

第73回 文部科学大臣杯全日本大学対抗選手権大会

<女子の部>

1	東京女子体育大学	0	1	神戸松蔭女子学院大学	30
7	関西外国語大学	1	0	福岡大学	36
8	桃山学院大学	1	0	天理大学	37
15	日本体育大学	0	0	東京経済大学	44
16	明治大学	2	1	早稲田大学	45
21	國學院大學	0	2	関西学院大学	52
26	四国大学	1	1	日本女子体育大学	53
29	関西大学	1	1	立教大学	59

<男子の部>

1	明治大学	1	1	関西外国語大学	37
6	東北福祉大学	1	0	中央大学	45
10	四日市大学	0	0	大阪成蹊大学	46
18	法政大学	0	0	早稲田大学	54
19	関西大学	1	2	九州産業大学	59
27	天理大学	2	1	國學院大學	60
28	福岡大学	2	0	同志社大学	64
32	愛知学院大学	1	2	日本体育大学	72

インカレに出場して

二年 川崎 浩希

インカレは今年で二回目の出場でした。昨年は僕の負けにより日体の負けが決まりました。その悔しさを忘れず望んだ今年のインカレでは、また僕の負けにより、チームが負けました。本当に悔しかったです。この悔しさを絶対に忘れず、次の大会と同じことを繰り返さないようにします。また、団体戦で勝つことも当然ですが、個人戦でも勝ちにこだわりをもっていたいと思います。

インカレに出場して

二年 村田 優

インカレの団体戦に出るのは初めてでした。一試合目は緊張して上手くプレーできませんでした。しかし、チームのみんなから「気楽にプレーしろよ」と声をかけてもらいました。二試合目からは思い切りプレーでき、結果もついてきました。応援の人達が盛り上がってくれたので、試合の時とても楽しかったです。来年は優勝出来るように、もつと努力していきます。

第74回 三笠宮賜杯全日本学生ソフトテニス選手権大会

<女子の部>

1	笠井・久保(日本体育大学)	0	1	小林・吉田(東京女子体育大学)	183
36	吉岡・宮田(桃山学院大学)	0	2	松永・土井(立教大学)	193
54	原口・上田(明治大学)	0	2	梶尾・隈元(立命館大学)	226
85	小山・川村(早稲田大学)	2	3	浦井・加地(天理大学)	251
106	荒木・中井(慶應義塾大学)	2	4	山本・宮原(湘南工科大学)	262
128	数内・古田(関西大学)	0	1	林田・島津(東京女子体育大学)	298
150	山本・古屋(東京女子体育大学)	0	0	高崎・小松(東京女子体育大学)	310
161	柴野・保科(青山学院大学)	3	0	宮岡・河村(日本体育大学)	341

<男子の部>

1	北本・丸山(明治大学)	2	2	北本・丸山(明治大学)	242
46	花岡・増田(関西大学)	0	0	清端・山本(日本体育大学)	273
77	中島・駒(関西外国語大学)	0	0	中平・米澤(要)(明治大学)	303
107	山根・岩本(早稲田大学)	2	2	谷口・大橋(関西大学)	362
122	本倉・斎藤(明治大学)	2	2	福井・田嶋(早稲田大学)	392
167	根本・渡邊(法政大学)	2	2	高橋・奥村(早稲田大学)	422
211	徳丸・榛葉(四日市大学)	2	4	水木・白井(早稲田大学)	438
241	阪本・飯田(関西大学)	2	4	因・内本(早稲田大学)	483

インカレに出場して

一年 江頭 寛晃

僕はインカレに出場させてもらって思ったことがあります。一つ目は自分のストローク力の無さです。二回戦負けしたのですが、相手のストロークについていけずラリーが続かずに結果何も出来ずに負けてしまったのでとても悔しい敗戦となりました。二つ目は僕のサーブは全国でも通じることが分かったのでこれからはサーブをもっと練習してのばしていこうと思いました。

インカレに出場して

一年 森田 晴紀

今回初めてのインカレで個人戦だけでなく団体戦にも出場させて頂きました。準決勝で早稲田大学と対戦しチームを勝利に導く事が出来ず、とても悔しい思いをしました。大舞台で勝つ事の難しさを改めて実感しました。初めてのインカレの雰囲気味わい、日体大のチームの良さも感じる大会となりました。次こそはチームの主体となって日本一になれるよう頑張っていきたいと思います。

第61回 全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会

<女子の部>

1	梶 尾 明日香 (立命館大学)	3	0	八十川 通 (神戸大学)	58
8	酒 井 葵 衣 (日本体育大学)	1	0	小 松 芹 奈 (東京女子体育大学)	63
20	高 井 紀 衣 (東京女子体育大学)	2	2	笠 井 菜々子 (明治大学)	67
21	下 地 真 未 (四国大学)	2	3	林 田 リ コ (東京女子体育大学)	74
32	古 屋 沙也加 (東京女子体育大学)	2	1	柴 野 未 来 (青山学院大学)	81
36	松 井 玲 奈 (早稲田大学)	1	2	阿久根 麻 尋 (関西大学)	88
41	片 野 理 音 (東京女子体育大学)	0	3	島 津 佳 那 (東京女子体育大学)	100
49	岩 下 美 久 (日本体育大学)	0	1	黒 田 奈 穂 子 (日本体育大学)	107

<男子の部>

1	置 磐 樹 乃 (麗星大学)	1	0	松 山 新 (天理大学)	69
5	中 平 慎 吾 (明治大学)	1	0	高 倉 和 毅 (早稲田大学)	70
16	谷 岡 凌 太郎 (明治大学)	2	0	内 本 隆 文 (早稲田大学)	78
24	近 藤 昂 (法政大学)	1	0	永 井 宏 典 (日本体育大学)	93
38	西 森 司 (吉備国際大学)	0	2	阪 本 峻 (関西大学)	94
40	中 村 日 紀 (福岡大学)	0	2	北 本 達 己 (明治大学)	109
55	水 木 瑠 (早稲田大学)	0	3	嶋 田 恵 太 (天理大学)	112
62	丸 山 海 斗 (明治大学)	0	2	本 倉 健 太 郎 (明治大学)	124



インカレに出場して

一年 工藤 彩奈

大学に入学して初めてのインカレでは、個人戦に出場させていただけました。同期とペアを組ませてもらえて話し合いもし挑んだ試合でしたが力を発揮することができず悔しい結果になりました。来年はまず自力でインカレ出場をして、インカレ本番では今年の反省を活かし一年間練習に取り組み尊敬できる先輩方のように全国で活躍できる選手になりたいと思います。

インカレに出場して

一年 星野 来夢

インカレに出て感じたことは、怪我で思ったように練習できていなかったが、無駄な動きが少なく自分らしいプレーが少しは出せたかなと感じた。自分が得意とするポイントも良い形で出す事ができた。でも一試合目の反省点を次の試合で修正することができずそのまま何も出来ずに負けてしまったと思う。トップレベルの試合を見て、自分に足りない所を見つけれ良いイメージがもてた。



令和元年度

第74回天皇賜杯・皇后賜杯 全日本ソフトテニス大会

十月十八日～二十日まで北上市
和賀川グリーンパークテニスコ
トで行われた。日体大から男子七
名、女子九名が出場した。女子では、
松井（早稲田大学）・原島ペアが
ベスト16。笠井・久保ペアがベ
スト32に入った。

天皇賜杯に出場して

四年 星野 雄慈

天皇賜杯に出場することができ
たのは、大学に来てから初めての
ことでまずは一勝でも多く勝つと
いう目標を立て、大会に臨んだ。
結果は三回戦敗退でしたが、今回
ペアを組んだワタキューセイモア
の北野くんとしつかり話をしなが
ら試合ができました。リードして
いての負けだったのとても悔し
いですが、今後また頑張ってい
こうと改めて思うことができた大
会になりました。

皇后賜杯に出場して

三年 山口 りか

天気が怪しい中、試合が行われ
ました。大きな舞台に立って勝つ
ということは、簡単ではないと感
じました。今の私自身ではほど遠
く技術的にも、精神的にも甘い部
分があるなと感じました。まだま
だ努力が足りないと感じ、これか
らの部活への取り組み、そして、
日常生活での行いをもう一度見直
します。一つ一つが最後になつて
くるので、悔いのないように戦つ
ていきます。

皇后賜杯に出場して

二年 濱田紗代美

私は、皇后賜杯に出場して挑戦
と経験ができたと思います。挑戦
は全体練習の目標であったショー
トボールを試合の中でたくさん打
つことができました。経験は、力
を上回っている相手との頭脳戦で
す。ダブル後衛という馴れてない
中で自分の力がどこまで発揮でき
たか鍵になったと思います。どん
なペアであっても勝利の為に根気
強く踏ん張る事がこれからの私の
課題だと思います。



キャプテンを終えて

四年 山本 貴大

昨年の岡山インカレからキャプテンを任ざれて新チームになり、いろいろな事がありました。秋リーグは準優勝で自分が勝ってれば優勝していた試合で負けてしまい、キャプテンの責任感や重圧を感じた大会でした。

それからは、監督、コーチなどのスタッフミーティングを何度か行い、どんなチームにしていきたいか、どうしたら応援されるチームになるのかなどを話し合いました。例えば、このミーティングがどれだけ大事だったかキャプテンを終えて気づきました。

シーズンが始まり、春合宿、春リーグ、東インカレとあまり良い波に乗れませんでした。しかし、自分達らしさを出していこうと岩手インカレに臨みました。結果は三位でしたが、四年間で一番団結力があり、日体大らしさを出せたチームだと思います。来年は橋本キャプテン率いる新チームに優勝してほしいです。

四年 笠井 佑樹

キャプテンを終えて、この一年間で色々な経験や体験をし、自身とても成長することができました。最初は不安しかありませんでしたが、自分自身が変われるチャンスだと思い、キャプテンを務めることができました。四年生全員でチームを引っ張ることができたと思います。インカレではベスト8でしたが、チームが一丸となり戦えたので悔いはありません。私が試合に集中できたのも、試合に出れていない人ももちろん、同級生のおかげだと思っています。沢山のサポートをしてくれて、のびのびできる環境を作ってくれたことにとても感謝しています。この一年間、仲間達と戦えて本当に楽しかったです。後輩達には目標を達成できるように頑張ってもらいと思います。今まで支えて下さった方々にはとても感謝しています。本当にありがとうございます。



新キャプテンになって

三年 橋本 旭陽

このたび新主将を務めさせて頂く三年の橋本旭陽です。先輩方が築きあげてきた伝統も実績もあるこの部活をまとめていく事に、とても責任を感じております。尊敬できる先輩方とソフトテニスができ、大会でも常にチームを引っ張って来ていただきました。その先輩方のように、キャプテンとしてチームを一つにまとめ、リードしていきたいと思っています。

男子ソフトテニス部は、雰囲気にとだわり全員が楽しく部活をしていける環境を作っていこうと思っています。しかし楽しいだけでは目標の日本一には届かないので、ONとOFFの切り替えには一番大切にしていきたいです。この部活のキャプテンである意味を受け止め、OB・OGの皆様にご迷惑をおかけすると思いますが、今後も日本体育大学ソフトテニス部を宜しく願います。

三年 黒田奈穂子

私が日本体育大学に入学したのは、インカレで日本一を獲りたいと思ったからです。

実際に入学した一年生の時インカレの決勝戦で戦っている先輩方の姿をこの目で見て自分もその舞台に立つて優勝を部員みんな味わいたいと強く思いました。

しかし、この二年間インカレはベスト8と結果を残せていないのが今の現状です。今年はベスト8から抜け出し、優勝するために取り組みから改め新しい事に積極的に挑戦できるように動き出しています。このような新しい取り組みに思い切り動き出せているのは影で支えてくださるたくさんの方がいるからだと思っています。

チーム一丸となり、インカレで最高の結果を残し良い報告が先輩方や支えてくださっている保護者OB・OGの方々に行けるよう、精一杯頑張ります。

必ず日本一になるので応援よろしくお願い致します。

編集後記

今季のインカレでは、男子が準優勝で早稲田大学に敗れたが、見事三位入賞、女子がベスト8という悔しい結果となりました。それに伴わず、女子のダブルス準優勝と女子シングルの三位など大活躍しました。日本一には届きませんでした。選手と応援が一同となり、試合の中で多くの感動と興奮を味わう事が出来ました。来年こそは男女共にインカレ、王座と出場し、優勝という目標に向かって日々精進していきますので、御支援の程宜しく願います。

大貫さんお疲れ様でした。球心作は想像以上に大変でしたね。でも、無事に終わって良かったですね。協力して下さった皆さん本当に有難うございました。(菅家)

菅家君、お疲れ様でした。初めての球心作成、無事作りあげる事が出来て本当に良かったです。協力して頂いた方々、本当に有難うございました。次号もまた宜しく願います。(大貫)

